

第22回 SSOR ルポ

SSORは、OR研究者の交流を目的として毎年夏に開催されている。第22回の今年は、8月19日～22日の4日間にわたり長野・霧ヶ峰高原を舞台に行なわれ、北は北海道から南は大分まで全国各地から64名の参加者(含女性3名)を得た。

第1日目は、午後3時から受付を始め、それぞれの部屋で早くも旧交を温める場面もあった。夕食後、「ORのこころ一格差を活用する」と題して牧野都治先生(東京理科大学)の特別講演が行なわれた。長い経験によって培われた先生のOR観が伺われ、興味深かった。その後さっそく催された飲み会にはほとんどの人が参加し、深夜まで賑やかであった。

第2日目の午前中は、水野真治先生(東京工業大学)が「線形計画の多項式オーダーの解法について」、八巻直一氏(システム計画研究所)が「非線形最小化問題に対する準ニュートン法について」をそれぞれ講演された。昼食後の一般発表では、数理計画法に関するものと応用に関するものがそれぞれ3件ずつあった。一般発表終了後に夕食を兼ねて行なわれた懇親会は、各自自己紹介を行なうなどなごやかな雰囲気のもとで行なわれ、お互いの交流を深めることができた。引き続き、今回のハイライトの1つであるキャンプファイヤーが宿の近くで行なわれ、某大学の有志(相撲ダンサーズ)によりファイヤードンスが披露されたり、童心に帰ってさまざまな花火に興じたりするなど、楽しい一時を過ごした。その後も、飲み会・麻雀・星空鑑賞会等、思い思いの交流が夜のふけるまで続いた。

第3日目の午前中は、浅利英吉先生(東海大学)が「北海道レポート構想」について、一森哲男先生(大阪工業大学)が「ダイヤモンド砥石の最適設計」についてそれぞれ講演された。昼食では、いかにも高原らしい野外バーベキューの料理が提供され、舌鼓を打つ人が多かった。午後の5件の一般発表は原発・製鉄所等の現場でのORの適用例、エキスパート・システム等のAI関連のものなど、すべて企業の方々によるものであった。夕食後、「化学プロセス合成における組合せ最適化問題」と

題して西田直矩先生(東京理科大学)の特別講演が行なわれた。ふだんわれわれが直面している問題とは傾向の異なる話題で、興味深いものがあった。ひきつづき催された飲み会では、明日で最後とあってカラオケによる歌の競演や隠し芸の披露なども行なわれ、若手を中心に深夜まで大いに盛り上がった。

最終日の午前中は、一般発表のみ5件で、数理計画法・待ち行列理論などに関するものが中心であった。昼食後、別れを惜しんだり来年の再会を誓いながらの解散となった。

今回は、企業の方々の参加・発表が例年に比べて多かったのが目立ち、理論と応用のバランスがとれていた。このことは、SSORの存在意義が広く認められつつあることの証左ではないかと思われる。今後とも企業の方々の積極的な参加が望まれる。

今回の舞台となった霧ヶ峰高原は、観光・レジャーに快適の地であり、全体に天気に恵まれたこともあって、講演・発表の合間にドライブ・スポーツ・ハイキング等に繰り出しお互いの交流や親睦を深めた方も多かった。そのためか、講演会場の人口密度がかなり低くなることもあったが、質疑応答は常に活発であり予定時間を超過することもしばしばあった。

また、講演会場が昼敷の大部屋に座蒲団を敷いた形式のもので、聴衆も胡座をかいったり寝転んだりといった楽な姿勢で聴くことができ、いかにもSSORらしい格式張らないくつろいだ雰囲気がかもし出されていた。そのためか、初めて講演する学生も比較のリラックスして話せたようであった。

最後に、今回の参加者がさまざまな形でお互いに交流・親睦を深めることができたのも、幹事役である東京理科大学の平林隆一先生・矢部博先生や、学生の諸君の獅子奮迅の活躍があればこそであり、僭越ながら、この場で参加者を代表して感謝の意を表したいと思う。なお次回のSSORは、姫路工業大学が幹事校となって行なわれる予定である。

(N T T 交換システム研究所 井上正之)